

(敬称略・順不同)

○リカルド・エステラ・ペティト

肩書き：国立サン・ボルハ・アリアラン病院チリ・日本消化器病研究所長

功 績：日本とチリとの医療協力の推進

同人は1995年、国立サン・ボルハ・アリアラン病院のチリ・日本消化器病研究所が設立された際に同研究所に在籍し、2006年から所長に就任。第三国からの研修受入れ先ともなっている同研究所において、がん治療技術の進歩に尽力してきた。同人は、専門家派遣や研修事業等による日本との協力関係を重視し、また東京医科歯科大と臨床・科学・学術研究に関する協定書を締結して大腸がんに係る学術研究を行うなど、日本との学術交流や医療協力関係構築に貢献。これらの功績はチリ国内のみならず南米各国のがん治療技術の進歩にも繋がっている。

○小野 耕一（おの こういち）

肩書き：日智商工会議所事務局長

功 績：日本とチリとの経済関係の促進

同人は、30年以上チリに在住し、現地日系企業での勤務経験を活かし、1995年から2001年、及び2019年から今日まで日智商工会議所の事務局長を計8年に亘って務め、日智商工会議所所属企業の支援や調整、在チリ日本大使館との連携等に尽力し、日チリ経済関係の土台を支え続けてきた。また事務局長を務める傍ら、サンチャゴ日本人学校を運営する日本文化教育財団事務局長としても計8年に亘り務め、日本人学校等の教育支援にも尽力。長年に亘り、チリの日系企業活動と、在留邦人子女教育の支援に貢献した。

○ハルコ・セシリア・サンチェス・スズキ

肩書き：バルパライソ日系人協会会長

功 績：チリにおける日本文化の普及

同人は、2018年からバルパライソ日系人協会会長に就任。日本離れが進む若い世代の日系人を積極的に取り込み、バルパライソ地域における日系社会の連携と強化に尽力。また日本文化紹介事業の中心的存在として活躍し、「お花見」「七夕」などを企画して開催。2023年の「お花見」は来場者が4,500人を超える規模となったが、同人が中心となって尽力し成功を収めた。日本文化・文化交流行事を通じて、日本文化の普及と両国の相互理解・友好親善の促進に貢献した。

○エルスベット・ゼンデル・バッフマン(チェピータ・デ・ブラーボ)

肩書き：元いけばなインターナショナル・サンティアゴ支部長

功 績：チリにおける日本文化の普及

同人は、1970 年にいけばなインターナショナル・サンティアゴ支部長に就任、同団体では計 3 期 8 年に亘って会長を努めた。また草月流、小原流の会長も歴任し、長年に亘ってチリにおける生け花の指導と普及に尽力してきた。また生け花教本のスペイン語での出版、日本の生け花に関する現地有力紙への寄稿やインタビュー、また国際会議の場や日本国大使館のレセプション等で生け花を展示し、生け花の普及に努めた。生け花指導者の育成と普及、生け花を通じた相互理解と友好親善の促進に寄与。

○水野 範和（みずの のりかず）

肩書き：アルマ観測所副所長（運用担当）

功 績：日本とチリとの学術交流の推進

同人は、2008 年から、欧州、北米、東アジア各国・地域の合同プロジェクトである、惑星系等の形成過程の解明や生命関連分子の発見を目指すアルマ観測所の関連業務に従事し、2017 年に同観測所技術部門長、2022 年には同観測所副所長に就任。日本の技術力を生かした同観測所は、日本の天文学分野におけるプレゼンスの向上に貢献しており、同人は観測の成果や天文学に関する研究等を通じて両国の学術交流振興及び科学技術協力に大きく貢献している。また中南米地域の日本人学校で天文学の講義も行うなど、後進となり得る人物の育成にも努めている。